

令和4年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立郷原中学校
(郷原中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学	理科
呉市教育振興基本計画(指標)	+5.0	+5.0	
令和8年度	-	-	-
令和7年度	-	-	-
令和6年度	-	-	-
令和5年度	-	-	-
令和4年度	+4.0	+0.6	+2.7

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎・・・各学校 ◇・・・中学校区

<p>国語</p> <p>本校 <u>73%</u> 全国 <u>69%</u> 県 <u>69%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎ 事象や行為、心情を表す語句について理解することに課題がある。(設問3二 全国平均との差-5.4)【知識・技能】</p> <p>◇ 表現の技法について理解したり、表現の効果について考えたりすることに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との違いについて理解したり、それらの関係に注意して読んだりする活動を仕組む。</p> <p>◇ 言葉の文章中での効果について考え、そう考えた理由をつけて表現するような活動を設定する。また、語句の技法的な表現についても捉えさせ、文章中での効果や価値を考える活動を設定する。</p> <p>検証</p> <p>◎◇ 全国学力(設問3二)の類似問題(中第3学年11月)目標80%→結果83.9%</p> <p>◎◇ 全国学力(設問3一)の類似問題(中第3学年11月)目標60%→結果64.9%</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査の「読むこと」の項目の正答率の全国平均との差を-2%以内にする。(小 第6学年 2月)</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査の「読むこと」の項目について、各学年それぞれ、昨年度の平均値より2ポイント上回る。(小 全学年 2月)</p>
<p>数学</p> <p>本校 <u>52%</u> 全国 <u>51.4%</u> 県 <u>50%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇ 与えられた図やデータを基に、目的に応じて特徴を読み取り、考察することに課題がある。中学校(設問7(2)全国平均との差-9.2), 小学校(設問3(2)全国平均との差-14.8)【データの活用】</p> <p>改善の方策</p> <p>◎◇ 身のまわりにあるデータを読み取ったり、図に整理したりする活動を設定する。また、複数のデータを比較し、その特徴や傾向を数学的な表現を用いて説明する活動を設定する。</p> <p>検証</p> <p>◎◇ 全国学力(設問7(2))の類似問題(中 第3学年 11月)目標60%→結果62.5%</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査の「活用」「図形」の項目の正答率の全国平均との差を-2%以内にする。(小 第6学年 2月)</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査の「活用」「図形」の項目について、小各学年それぞれ、昨年度の平均値より2ポイント上回る。(小 全学年 2月)</p>
<p>理科</p> <p>本校 <u>52%</u> 全国 <u>49.3%</u> 県 <u>49%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎ 課題を解決するためにどのような実験をすればよいか、また、得られた結果が不十分な場合、さらにどのような検証をしていけばよいかを計画することに課題がある。(設問8(1)広島県平均との差-5.6, (2)広島県平均との差-5.4)</p> <p>◇ 得られた実験結果から何が分かったのか、それを分析、考察し、表現することに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎ エネルギー単元(2学期実施)において、力学的エネルギーを決定する要素とその関係性を調べる際、調べ方を計画することに重点を置く活動を設定する。</p> <p>◇ 課題を解決するために、行う実験を自分たちで計画し、得られた結果をもとに分かったことを自分の言葉や文章で表現するという学習サイクルを日常化していく。</p> <p>検証</p> <p>◎◇ 全国学力(中学校設問8(1・2))の類似問題(中 第3学年 11月)目標65%→結果68%</p> <p>◇ 学年で使用する器具の名称や使い方に関する確認問題(自作)の正答率70%の児童の割合を80%にする。(小 第3~6学年 3月)</p> <p>◇ 学年末活用テストの正答率70%の児童の割合を80%にする。(小 第3~6学年 3月)</p>

【来年度に向けて】

与えられた情報や既存の知識を、生徒同士の関わりを通して考察したり考えたりする活動を仕組むと共に、個人が考えをまとめ・再構成する場をつくり、自分の言葉で書いたり説明したりする表現の場の設定に取り組んでいく。